

press release



大好評開催中！！

「夏目漱石の美術世界」展

新着情報(4月9日更新)

縮景園と合わせての利用が

お得な「トリプルチケット」を発売します。

展覧会会場・開会式の様子を追加しました！！

会 期:平成25(2013)年3月26日(火)～5月6日(月・振休)

※会期中無休

開館時間:9:00～17:00

※3月29日は19:00まで、以後の金曜は20:00まで開館

※入館は閉館30分前まで

会 場:広島県立美術館 3階展示室

巡 回 先:東京藝術大学大学美術館

平成25(2013)年5月14日(火)～7月7日(日)

静岡県立美術館

平成25(2013)年7月13日(土)～8月25日(日)



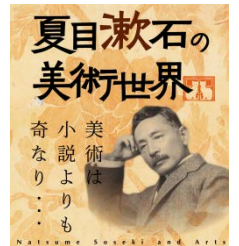
- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白鳥線で「縮景園前」下車約20m



名勝「縮景園」とともに歩む アートの社
広島県立美術館

Hiroshima Prefectural Art Museum

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22 TEL(082)221-6246
http://www1.hpam-unet.ocn.ne.jp/ FAX(082)223-1444



【夏目漱石の美術世界展特別企画トリプルチケット発売】

広島県縮景園と広島県立美術館は連携し、日々、サービス向上を目指しています。今回は、現在開催中の展覧会開催に合わせ試験的に、「夏目漱石の美術世界展特別企画トリプルチケット」を縮景園にて限定販売いたします。

「夏目漱石の美術世界」展一般入館券
+
縮景園一般入園券
+
広島県立美術館
ティールームドリンク100円引チケット

1,550円(相当)



1,000円

【展覧会概要】

案内人は夏目漱石一彼の愛した美術世界を今、あなたへ

近代日本を代表する文豪・夏目漱石は、『坊っちゃん』、『こころ』など多くの名作により、国内外で親しまれている国民作家である。少年時代から絵が好きだった漱石は、ロンドン留学中(1900-1902年)にも何度も美術館を訪問。帰国後に小説家として活躍を始めるが、美術に対する幅広い知識と豊かな鑑賞体験は、さまざまな文学作品や美術批評の中で花開いている。

この展覧会は、漱石の著作に登場する美術家、作品を可能な限り集めようという初の試みである。ターナーやミレイ、ウォーターハウスらのイギリス美術から、伊藤若冲や与謝蕪村らの近世絵画、青木繁や岸田劉生を初めとする漱石と同時代の作家の作品まで幅広く紹介。あわせて漱石自筆の山水画や、漱石の著作を華麗に彩り、革新的なブックデザインを生んだ津田青楓や橋口五葉らの装幀や挿画の仕事も紹介する。漱石を案内役として、古今東西の美術作品鑑賞。また、お気に入りの小説の一節を思い浮かべて絵を楽しむもよし、視覚イメージを得てから著作を再読するもよし。美術と文学が同時に楽しめる、待望の展覧会である。

(広島県立美術館 主任学芸員 藤崎 綾)

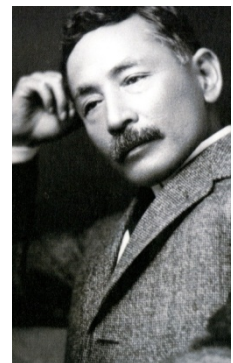
【夏目漱石について】

夏目 漱石(なつめ そうせき、1867-1916)

小説家、評論家、英文学者。本名、金之助(きんのすけ)。江戸の牛込馬場下横町(現在の東京都新宿区喜久井町)出身。愚陀仏とも称した。

大学時代に正岡子規と出会い、俳句を詠む機会を得る。帝国大学(後の東京帝国大学、現在の東京大学)英文科卒業後、松山で愛媛県尋常中学校教師、熊本で第五高等学校講師などを務めた後、イギリスへ留学。帰国後、東京帝国大学講師として英文学を講じながら、「吾輩は猫である」を雑誌『ホトギス』に発表。これが評判になり「坊っちゃん」などを書く。

その後朝日新聞社に入社し、「虞美人草」「三四郎」などを掲載。「修善寺の大患」後は、『行人』『こころ』『硝子戸の中』などを執筆。「則天去私(そくてんきよし)」の境地に達したといわれる。晩年は胃潰瘍に悩まされ、「明暗」が絶筆となった。



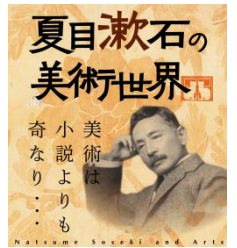
1912年9月頃撮影

press release

【展覧会構成と内容】

※会期中展示替えあり

展覧会会場写真を追加しました！



プロローグ:「吾輩」が見た漱石と美術

第1章 漱石文学と西洋美術

ロンドン留学やパリへの訪問など実作や図版などを通じて幅広い西洋美術作品に触れた経験は、彼の美術評論ばかりでなく、以後の小説にも活かされ、自然や人物、情景などのイメージを豊かに膨らませています。この章では、『坊っちゃん』『文学論』『草枕』などで、漱石が繰り返し言及しているターナー、文学とも深いつながりのあるラファエル前派の画家、ミレイやロセッティらの作品を紹介します。

第2章 漱石文学と古美術

早くから絵画への関心を抱いた漱石は、美術館や博物館を訪れ、古今東西の美術作品に幅広く親しむとともに、その知識と体験を文学作品に取り込み、活かしました。本章では、漱石の文学作品や日記の中に登場する作家や作品を紹介します。

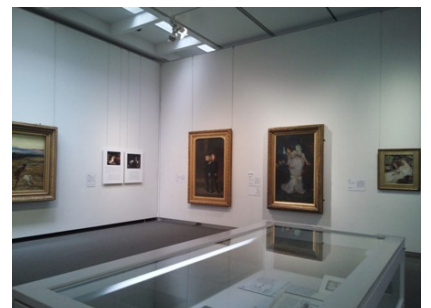
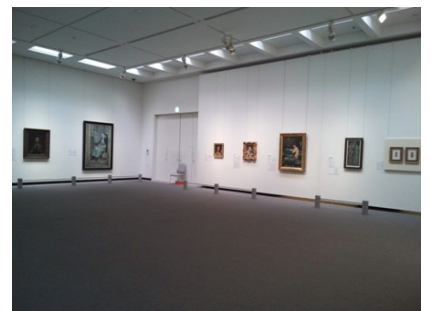
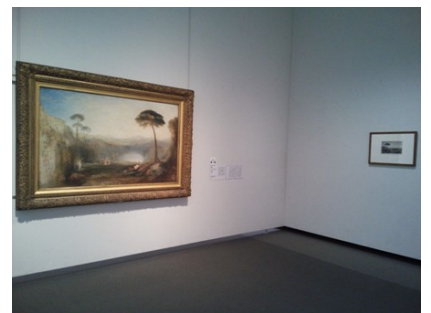
第3章 文学作品と美術 『三四郎』『それから』『門』『草枕』

とくに美術関係の記述が多い『三四郎』『それから』『門』『草枕』を取り上げる本章では、広範で自在な漱石の美術鑑賞眼を感じ取ることができます。グルーズやウォーターハウスといった海外作家に加え、若冲や円山応挙ら、近世絵画の中でも人気の高い作家の作品が含まれます。なかでも、広島会場のみのお品となる長沢蘆雪の《山姥図》(重要文化財)は注目の一点。また、本展のために、『三四郎』の中で出てくる、“原口が美禰子を描いた作品”を推定して描いた試作が現在制作中。新作により、漱石の小説をさらに楽しむことができそうです。

第4章 漱石と同時代美術

漱石の唯一の美術批評といってよい「文展と藝術」(1912年、朝日新聞に12回連載)は、当時大変な注目を集めていた文展(文部省美術展覧会)を批評したものの。この章では、第6回文展出品作の中から、漱石が批評した作品を中心に紹介します。安田靉彦らの日本画、油彩画では黒田清輝の作品や、広島出身の南薫造の代表作《六月の日》も出品されます。それにあわせて、「文展と藝術」の中で漱石も言及しているフウザン会の作家、岸田劉生、萬鉄五郎らにも焦点をあてます。

下記、すべて広島県立美術館、展覧会会場写真





【展覧会構成と内容】

※会期中展示替えあり

第5章 親交の画家たち

漱石の友人といえば、東京帝大時代から親交を深めた正岡子規がよく知られるところですが、漱石はほかにも多くの美術家と親交を結んでいます。おそらく子規を介して知り合ったと考えられている浅井忠は、パリでも交友、また、画家の深見として『三四郎』に登場することでも知られています。

第6章 漱石自筆の作品

浅井忠の門弟・津田青楓は、いわば漱石の絵画の師。彼の手ほどきにより、漱石は多くの絵画を描きました。本展では、夏目漱石《青嶂紅花図》（1915年）など、漱石自身が描いた山水画などをご紹介します。なかなか、鑑賞する機会の少ない漱石の絵画作品は必見です。

第7章 装丁と挿図

ロンドンで洋書の美しさに触れた漱石は、書籍や装丁・挿画の重要性に気づき、自身の著作にも美しさを求めました。

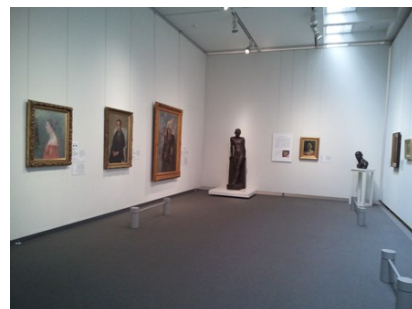
漱石の代表作となる長編小説『こゝろ』は、1914年4月20日から8月11日まで、「朝日新聞」で「心先生の遺書」として連載され、同年、岩波書店より漱石自身の装丁で刊行されました。また、漱石に絵の手ほどきをした青楓は、漱石の著作の装丁も手がけ、橋口五葉は日本の書物史上、装丁、造本ともに群を抜き、新しい画期をなす傑作『吾輩ハ猫デアル』の装丁者として知られています。

【開会式の様子】

3月26日に開幕した「夏目漱石の美術世界」展。今回の開会式では、ご挨拶、来賓紹介等に加えて、様々に趣向をこらして開催いたしました。司会は広島テレビの藤村直己さん。

あの『坊っちゃん』の格好で登場！ そのお隣には、松山マドンナ大使にもご出席いただき、テープカットに花を添えていただきました。さらに、開会式ご招待の皆様には、夏目漱石とゆかりの深い松山から「道後温泉足湯タオル」などのお土産がプレゼントされ、夏目漱石一色の開会式となりました。

下記、すべて広島県立美術館、展覧会会場写真

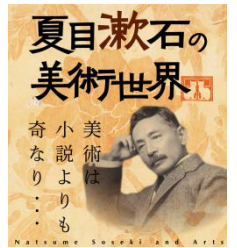


press release

【出品作品図版】

※出品作品は、予告なく変更となる場合がございます。ご了承ください。

※画像の二次利用はご遠慮ください。広報用の画像提供が必要な場合にはご連絡ください。



『坊っちゃん』

「あの松を見給へ、幹が真直で、上が傘の様に開いてターナーの画にありさうだね」と赤シャツが野だに云ふと、野だは「全くターナーですね。どうもあの曲る具合つたらありませんね。ターナーそつくりですよ」と心得顔である。

ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー 《金枝》
1834年、テイト蔵、ロンドン
© Tate, London 2013



『倫敦塔』

J. E. ミレイ
《ロンドン塔幽閉の二人の王子》
1878年
ロンドン大学ロイヤル・ホロウェー絵画コレクション



『薙露行』

J. W. ウォーターハウス
《シャロットの女》
1894年
英・リーズ市立美術館
© Leeds Museums and Galleries
(Leeds Art Gallery)



『三四郎』

…二、三日まえ三四郎は美学の教師からグルーズの絵を見せてもらった。その時美学の教師が、この人のかいた女の肖像はことごとくヴォラプチュアスな表情に富んでいると説明した。ヴォラプチュアス！ 池の女のこの時の目つきを形容するにはこれよりほかに言葉がない。何か訴えている。艶《えん》なるものを訴えている。そうしてまさしく官能に訴えている。けれども官能の骨をとおして髓に徹する訴え方である。甘いものに堪《た》えうる程度をこえて、激しい刺激と変ずる訴え方である。甘いといわんよりは苦痛である。卑しくこびるのはむろん違う。見られるもののほうがぜひこびたくなるほどに残酷な目つきである。しかもこの女にグルーズの絵と似たところは一つもない。目はグルーズのより半分も小さい。…

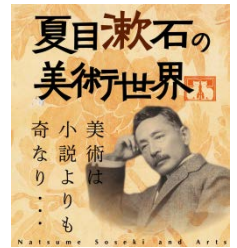
ジャン＝バティスト・グルーズ 《少女の頭部像》
18世紀後半 ヤマザキマザック美術館

press release

【出品作品図版】

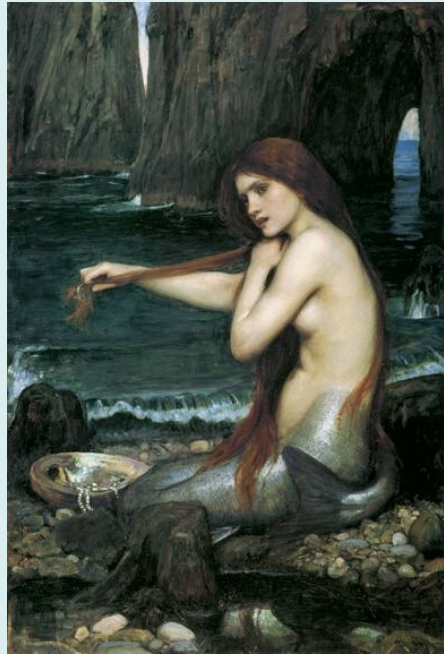
※出品作品は、予告なく変更となる場合がございます。ご了承ください。

※画像の二次利用はご遠慮ください。広報用の画像提供が必要な場合にはご連絡ください。



夏目漱石の
美術世界

奇なり・小説より・美術は



展覧会のポイント！！

漱石の代表作『坊っちゃん』の一節で知られるターナー

文学作品や日記に登場する西洋美術・日本美術の名品を多数展示

美術批評も行っていた漱石・自筆の作品も紹介

『三四郎』

…「一寸御覧なさい」と美禰子が小さな声で云う。三四郎は及び腰になって、画帖の上へ顔を出した。美禰子の髪で香水の匂がする。画はマーメイドの図である。裸体の女の腰から下が魚になって、魚の胸が、ぐるりと腰を廻って、向う側に尾だけ出ている。女は長い髪を櫛で梳きながら、梳き余ったのを手に受けながら、此方を向いている。背景は広い海である。「人魚(マーメイド)」「人魚」頭を擦り付けた二人は同じ事をささやいた。この時胡坐をかいていた与次郎が何と思ったか、「何だ、何を見ているんだ」と云いながら廊下へ出て来た。三人は首を鳩(あつ)めて画帖を一枚毎に繰って行った。色々な批評が出る。みんな好い加減である。…

J. W. ウォーターハウス 《人魚》
1900年 ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ、ロンドン

広島会場のみ出品！

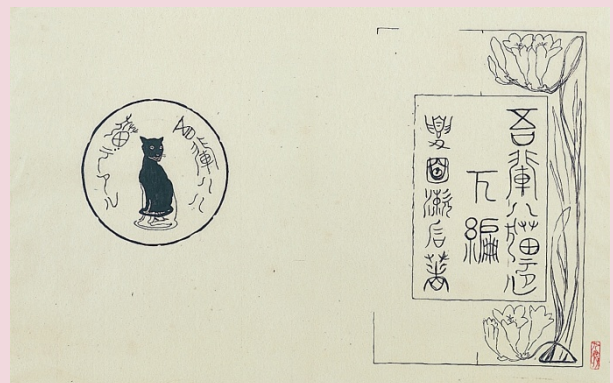
重要文化財 長沢蘆雪 《山姥図》 厳島神社

『草枕』

…画家として余が頭のなかに存在する婆さんの顔は高砂の媪と、蘆雪のかいた山姥のみである。蘆雪の図を見たとき、理想の婆さんは物凄いのだと感じた。…

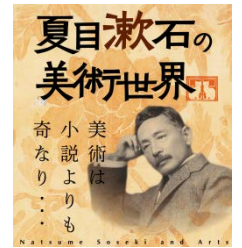


夏目漱石著 《吾輩ハ猫デアル》
橋口五葉装丁デザイン



橋口五葉 《吾輩ハ猫デアル》
中表紙デザイン

press release



【イベント情報】

松山市立子規記念博物館 竹田美喜館長をお招きしての記念講演会や展覧会と合わせてお楽しみいただくことで、展覧会の魅力がよりわかる美術講座など充実の内容です。当日の取材、イベントの広報等もご協力ください。

記念講演会「明治28年の子規と漱石」

日時:4月21日(日) 14:00~(受付13:30)
講師:竹田美喜(松山市立子規記念博物館館長)
会場:地階講堂
※聴講無料。申込不要(先着200名)

美術講座

「Love Soseki~夏目漱石が愛したモノ~」

日時:4月14日(日) 各日10:30~/13:30~(各日、30分前受付)
講師:藤村直己(広島テレビ)
会場:3階ロビー
※聴講無料。申込不要(先着50名)



『夏目漱石の美術世界』散策」

日時:4月28日(日) 13:30~(受付13:30)
講師:藤崎綾(当館主任学芸員)
会場:地階講堂
※聴講無料。申込不要(先着200名)

ギャラリートーク

日時:毎週金曜日11:00~/4月26日(金) 18:00~
講師:藤崎綾(当館主任学芸員)
会場:3階企画展示室
※入館券が必要です。



ギャラリートークの様子

【オリジナルグッズ】

展覧会会場出口には、特設グッズコーナーを設置。漱石の顔をモチーフにした金太郎飴や装幀デザインを展開した様々なオリジナルグッズをご用意しております。



press release

【音声ガイド】

「夏目漱石の美術世界」展 公式音声ガイド
展覧会がもっとよく分かる聴く！漱石と美術

解説件数：約24件

解説時間：約30分

貸出料金：500円(税込)

朗読と語り：加賀美幸子(アナウンサー、元NHK)

【開催概要】

展覧会名称

夏目漱石の美術世界展

英語タイトル：Natsume Soseki and Arts

キャッチコピー：美術は小説よりも奇なり・・・

リード：『坊っちゃん』で有名なあのターナーから、蘆雪、劉生など日本美術の名品まで

開催クレジット

主催：広島県立美術館、広島テレビ

後援：ブリティッシュ・カウンシル、愛媛県、愛媛県教育委員会、松山市、松山市教育委員会、広島市、
広島市教育委員会、在広の新聞社、放送局(予定)

協賛：広島県信用組合、リベラ株式会社

協力：岩波書店、神奈川近代文学館、KLMオランダ航空、日本航空

会期

平成25年3月26日(火)～5月6日(月・祝)

※会期中無休

※午前9時～午後5時(3月29日は午後7時まで、以後の金曜は午後8時まで閉館)

※入館は、閉館の30分前まで

※3月26日は、午前10時から開館

会場

広島県立美術館

入館料

一般：1,200円(1,000円) 高・大学生：900円(700円) 小・中学生 600円(400円)

※()内は前売り・団体20名以上

※学生券をお求めの際は学生証のご提示をお願いします。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)の
当日料金は半額

※特別展入館券で所蔵作品展もご覧いただけます。

※東日本大震災で避難して来られた方は無料です(1階総合受付でお申し出ください)。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. keiko_yamamoto@nomurakougei.co.jp (山本宛)

担当 学芸課 藤崎綾 事業推進課 山本恵子

音声ガイド

展覧会がもっとよく分かる
聴く! 漱石と美術

主人の文章の朗読とともに
展が解説を楽しめる。
吾輩も聴いてみたいものだ。

加賀美幸子
[アナウンサー、元NHK]

●解説件数: 約24件
●解説時間: 約30分
●貸出料金: 500円(税込)

監修: 東京藝術大学美術館
企画制作: NHKプロモーション/東京新聞/アートアンドパート

